

佳作

だいすきなマークくん

静岡県 富士市立岩松北小学校一年 赤塚 剛士

ぼくのいえには、二ひきのねがいました。そのうちのいっぴきのねこのはなしです。そのねこは、しろとくろのけのいろをしてはなにほくろをポツンとひとつつけていて、しっぽがみじかくウサギのようなしっぽをしていました。そのこのなまえは「マークくん」といいました。マークくんは、いつもぼくといっしょにいて、だっこするとふわふわしていました。たべものをあげたり、トイレをきれいにしたり、ブラッシングもしてあげたりしました。

きよねん、あしにおできができて、あしをとっちゃやしゅじゅつをしたときには「がんばったね」とかいたししょうじょうとメダルとトロフィーをあげました。三ぼんあしであるいて、とてもがんばりやさんのマークくん。いやなことがあっても、マークくんをなでればいいきもちにさせてくれたマークくん。ぼく

はそんなマークくんが、だいすきでした。

ことし四がつ十五にち、ぼくががつこうからかえってくるど、マークくんはげんかんのダンボールのなかでうごかなくなっていました。ぼくは、なんども、なんども、

「マークくん、マークくん。」

とよびました。でも、なにもいってくれません。それどころか、こおりみたいにカチンコチンになっていました。ぼくはマークくんのそばでうごくのを、ずっとまっていたいました。でもいつになってもうごきません。

「マークくん、しんじやった。」

ぼくはかなしくてかなしくて、なみだがでてきました。そのひのよるは、マークくんのそばでいっしょにねました。つぎのひ、マークくんをもやして、そらのぼっていくのをなみだをながしてみおくりました。そのあと、ほねになったマークくんをだいにひろいあつめながら、ぼくは、

「ありがとう。ありがとう。」

って、なんどもいいました。

いえにかえると、もういっぴきの「くろちゃん」というねこがまっていたいました。くろちゃんは、まっ

くろでマークくんよりけがながくて、モフモフしているめすねこです。そのねこは、ぼくがいえのなかではしかったり、おおごえをだしたりするのがきらいで、いつもばあばのへやにいました。でも、ひるまからいえのなかで、マークくんをさがすように

「にゃあにゃあ。」

となきながらあるいていました。それをみて、ぼくはくろちゃんもマークくとずっといっしょにいたから、さびしいのかな、とおもいました。だからぼくは、くろちゃんにちかづいてみることにしました。くろちゃんが、

「にゃあ。」

とないたので、ぼくは、

「マークくん。」

と、よんでみました。くろちゃんは、そっとぼくにちかづいてくれました。ぼくもくろちゃんも、マークくんをわすれることなんてできません。くろちゃん、これからは、ぼくがくろちゃんといっしょにいるから、あんしんしてね。ずっとずっとだいすきだよ、マークくん。